

多摩ニュータウン環境組合

『中期経営計画 ビジョン2017』

評 価 結 果

多摩ニュータウン環境組合

平成30年3月

## はじめに

多摩ニュータウン環境組合では、平成25年2月に「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」という経営方針を実現するため、平成25年度から29年度までの5年間の取組みを定めた「中期経営計画 ビジョン2017」を策定した。

この中期経営計画の最終年度である平成29年度を終えるにあたり、設定した目標の達成度合いを評価し、また、今後の課題等についても明らかにした。

## 評価の対象

ビジョン2017では経営方針実現のための施策を、「目指す方向性」、「戦略（取組内容）」、「重点プログラム（年次計画）」の3階層で構成している。

このうち、目指す方向性から戦略的な施策（取組）を展開するとしていたため、今回は、第2階層である「戦略（取組内容）」ごとの評価を行った。

### 施策の構成

－ 第 1 階 層 － 目指すべき方向性	－ 第 2 階 層 － 戦 略（ 取 組 内 容 ）	－ 第 3 階 層 － 重 点 プ ロ グ ラ ム
1 安全で安定的な管理運営体制の構築	1 多摩清掃工場あり方ワーカー	A 多摩清掃工場あり方検討
	2 長期的な維持管理	B 長期修繕計画
		C 長寿命化計画
		D 総合評価方式導入効果の検証（工場運転等管理業務委託）
3 循環型社会形成推進地域計画	4 地球環境にやさしい清掃工場	E 循環型社会形成推進地域計画
		F 資源化率の向上（不燃・粗大）
		G 埋立残渣の削減
2 効率的な行財政システムの構築	5 財政計画	H 太陽光発電システム・LED照明化等の導入を検討 機器更新時等の省エネルギー化
		I 財政計画（財政フレーム）
		J 負担金算定方法の見直し
	6 組織・人事計画	K 安定したごみ処理体制の確保
		L 組織・人事計画 職員の人材育成
	7 事務の適正化及び電子化の推進	M 公契約制度の導入
		N 情報管理セキュリティの運用
3 新たな取組みに向けた仕組みの構築	8 地域連携体制の充実	O 地域協議会の立上げ
		P 設立20周年記念事業の実施
		Q 見学者対応の充実

## 評価のねらいと考え方

評価にあたっての考え方は次のとおりである。

- ①「戦略（取組内容）」達成のための取り組みの柱として「重点プログラム（年次計画）」を定め、進行管理を行ってきたことから、「重点プログラム（年次計画）」の進捗状況を参考に、本計画の達成状況を総合的に評価した。
- ②「重点プログラム（年次計画）」の進捗率・評価については、**計画中の5年間で、いかに目標達成に向けての取り組みを行ったか**を中心に、各年度末の進行管理によって進捗状況や次年度への課題・取り組みを明らかにしてきた。その結果としての進捗状況であるため、必ずしも目標達成＝完了とはなっていない。
- ③「重点プログラム（年次計画）」の進捗率・評価では、上記②のとおり、目標達成ができなくても一定の方向性をもって結論付けたものは完了としている。その場合、今後の課題を明らかにし、次期の「中期経営計画ビジョン」策定の参考とする。

## 評価の基準

「戦略（取組内容）」ごとに、その配下にある「重点プログラム」の進捗状況を踏まえ、平成29年度末時点における達成状況を改めて評価した。

評価の基準は次のとおりである。

評価	評 価 の 基 準
S	ねらい以上の成果を得た。
A	ねらいどおりの成果を得た。
B	ねらいどおりではないが、一定の成果を得た。
C	成果が得られなかった。

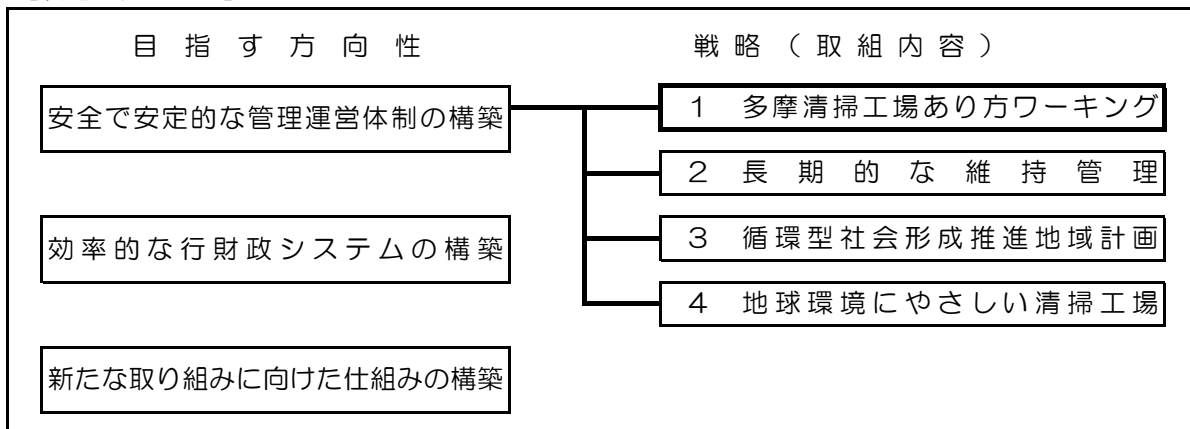
## 「戦略（取組内容）」の評価

別添「多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017『戦略（取組内容）』評価シート」のとおりとなった。また、参考資料として「中期経営計画・ビジョン2017 実施状況」を添付している。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	1 多摩清掃工場あり方ワーキング
--------------	------------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

<p>○背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調布市の応援ごみ処理が平成24年度で終了した。また、構成市においてもごみの資源化・減量化が推進したことにより、施設の稼働率が低くなっている。</li> <li>構成市の清掃工場で老朽化が進み、相互協力体制の構築・強化が必要となっている。</li> </ul> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多摩清掃工場を有効活用しながら安定的なごみ処理を実施する。</li> <li>構成市の情勢を踏まえながら、処理区域の再編や更なる相互協力体制を構築する。</li> </ul>
--

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	【A】「効率的で適正な施設稼働」「構成市の廃棄物処理基本計画との整合性を図る組合の運営」「処理区域再編計画の検討」「地元住民への合意形成のアプローチ」「多摩地域広域ごみ処理実施支援体制への対応」について検討するため、平成25年8月以降施設・運転計画検討チーム5回、財政組織検討チーム3回、全体会2回の会議を開催し、平成26年度第4回、第5回兼任職員会で検討結果を報告した。 区域再編の検討は、兼任職員会議で行うこととなった。
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
A 多摩清掃工場あり方検討	26	平成26年度完了	A	1 (3) ⑦

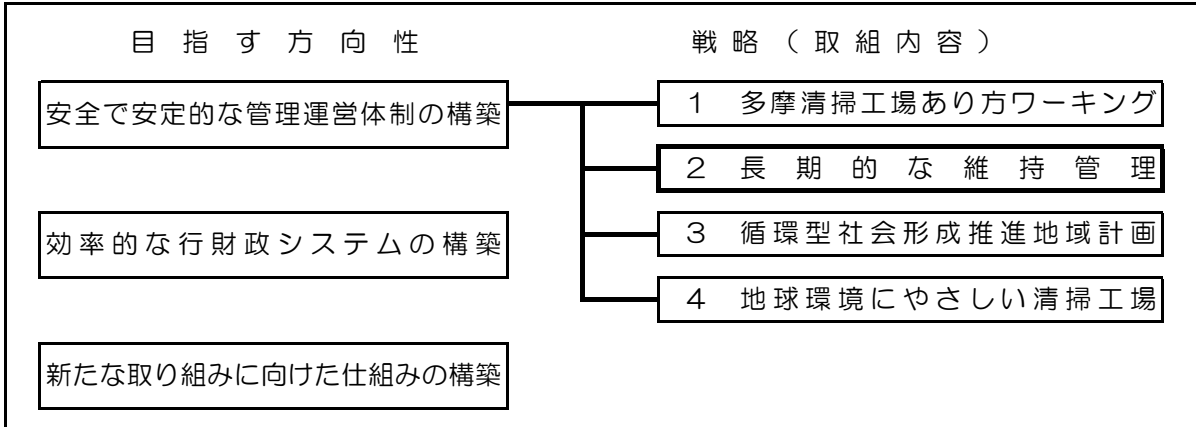
【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>区域の再編については、平成28年度より兼任職員会課長級ワーキングで検討を行い、平成29年度末には八王子市、町田市の概ねの区域案について、住民説明会を実施した。今後具体的な区域（町丁名等）やごみ種、ごみ量の確定を行い、平成30年秋に再度住民説明会を行う予定である。</li> </ul>
---

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	2 長期的な維持管理
--------------	------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

- 背景
  - ・焼却施設の稼働から15年が経過し、故障等が多発する可能性がある。
  - ・常に安全で安定した施設稼働の確保が重要課題である。
- ねらい
  - ・ストックマネジメントの考え方を導入した長寿命化計画との連携を図る。
  - ・予防保全を目的とした施設の長期修繕計画に基づいた確実な維持管理を実行する。

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	
A	【B】安全で安定した施設稼働のため新たな長期修繕計画に基づき工事、修繕を実施し、確実な維持管理に努めた。更に平成29年度に長期修繕計画を精査し、平成44年度までの整備計画を策定した。 【C】長寿命化計画（延命化計画）に基づき平成26年度からの3か年で設備の更新を行った。 【D】総合評価落札方式を試行した「工場運転等管理業務委託」の妥当性・導入効果を検証した結果、平成28年度の契約行為においても同方式を採用することとした。

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
B 長期修繕計画	25~34	平成29年度完了	A	1 (1) ①
C 長寿命化計画	25~34	平成28年度完了	A	
D 総合評価方式導入効果の検証 (工場運転等管理業務委託)	28	平成28年度完了	A	

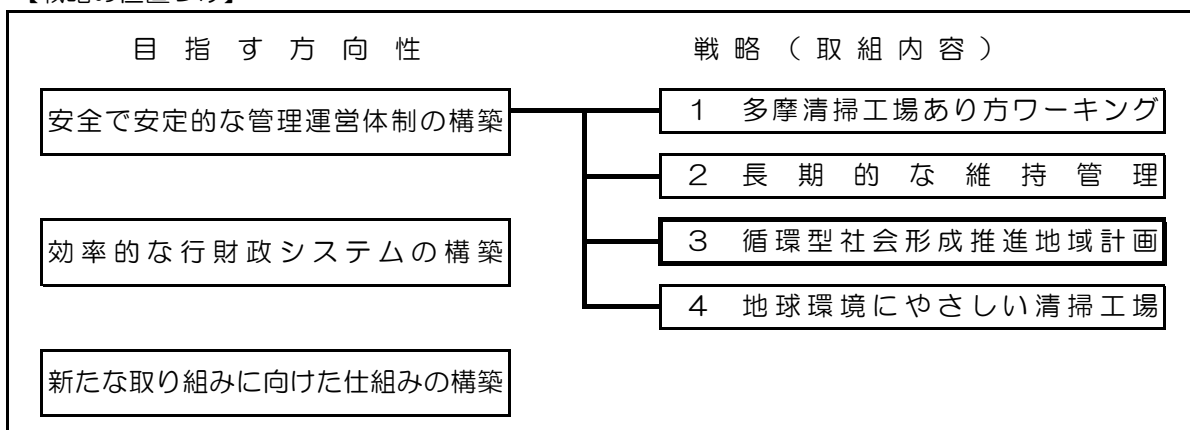
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・3カ年計画工事完了後も省エネルギー化、Co2削減と延命化に取り組む必要がある。
- ・長期修繕計画にない設備についても、経年劣化に伴う緊急的な対応が増えてくるので迅速に対応する必要がある。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦 略 (取組内容)	3 循環型社会形成推進地域計画
------------------	-----------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

<p>○背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度に構成市と連携し、「循環型社会形成推進地域計画」を策定した。</li> <li>構成市において一般廃棄物処理計画等の策定・見直しが予想される。</li> </ul> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構成市の一般廃棄物処理計画等と整合性のとれた地域計画の改訂を行っていく。</li> </ul>
---

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	<p>【E】地域計画に基づき「基幹設備改良事業（工事）」を平成26～28年度の3か年かけて実施した。工事の結果、消費電力の削減と発電量の増加が図られ、CO<sub>2</sub>排出量も13.4%削減した。</p> <p>【F】金属・小型家電の他に、銅管、ステンレス、羽毛布団及びCD/DVD等の新たな資源化にも取組み、収入増加を図った。</p> <p>【G】埋立残渣削減の検討を行い、残渣を清掃工場で焼却処理することで、平成27年度から埋立残渣「ゼロ」を達成した。</p>
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
E 循環型社会形成推進地域計画の実行	24~28	平成29年度完了	A	
F 資源化率の向上（不燃・粗大）	24~28	平成28年度完了	A	1 (2) ⑤⑥
G 埋立残渣の削減	27	平成26年度完了	A	

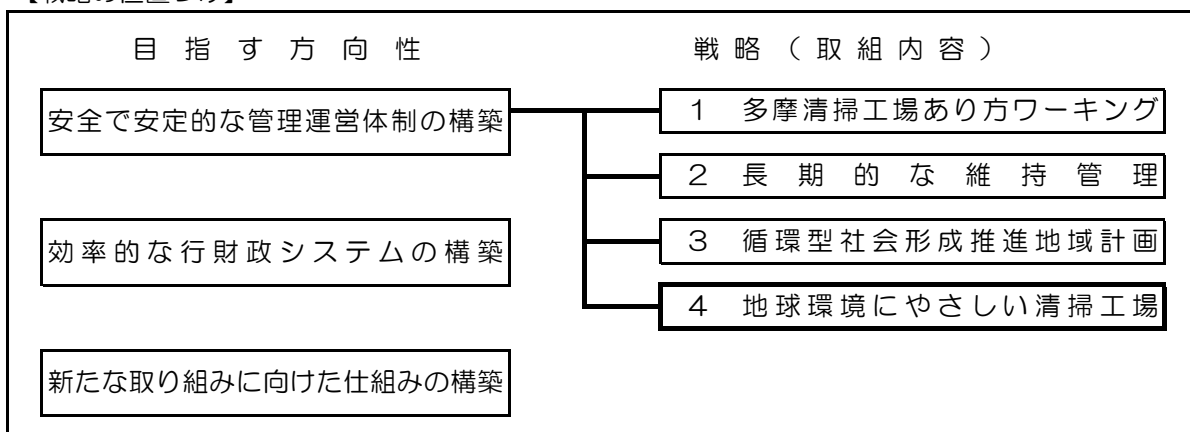
【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>八王子市・町田市の不燃ごみや粗大ごみから小型家電等の資源化を検討する。また、資源化率の向上に努める。</li> </ul>
--

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	4 地球環境にやさしい清掃工場
--------------	-----------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

○背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーに注目が集まる中、ごみ発電の重要性が高まっている。清掃工場でも使用する以外は余剰電力として売電できる量を発電している。</li> <li>ごみ処理だけではなく、エネルギー供給に対しても貢献できる施策を考案する必要がある。</li> </ul>
○ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラント設備では機器更新時に、プラント設備以外ではLED照明に交換するなど省エネルギー化を積極的に検討する。</li> <li>太陽光発電システムなどの導入を検討する。</li> </ul>

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	<p>【H①】太陽光発電設備の導入について設置場所・費用回収年数等を調査・検討した結果、設置場所として想定される各施設の屋上は構造的に不適であり、設置費用の回収も困難であることから、導入はしないとした。</p> <p>【H②】長寿命化計画に基づき、基幹設備改良工事の中でLED照明への交換を実施（26年度）。「照明のLED化計画」を策定（29年度）。</p> <p>【H③】各年度のオーバーホール・修繕等で省エネルギーの電動機やポンプを選定・更新し、省エネルギー化を推進した。</p>
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
H ①太陽光発電システム・②LED照明化等の導入を検討	25~26	平成25年度完了	A	
	25~26	平成26年度完了	A	
③機器更新時等の省エネルギー化	25~34	平成29年度完了	A	1 (2) ③

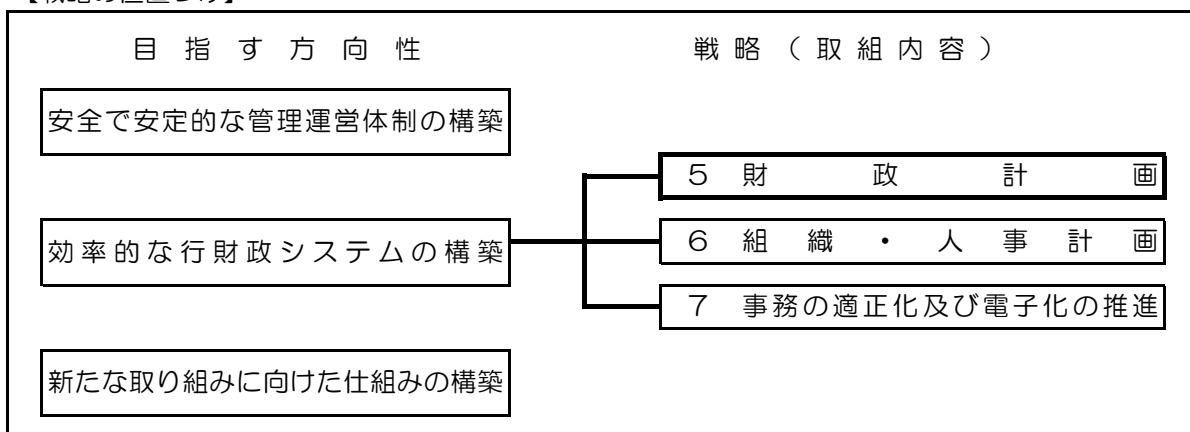
【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>LED化計画に基づき、省エネルギー効果の高い場内照明のLED化を進める。</li> <li>日々技術は進歩しているので、このプラントに適した最新の技術を収集して工事・修繕に取り入れられるか検討をする。</li> </ul>
--

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	5 財 政 計 画
--------------	-----------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

- 背景
- ・歳入財源を構成市からの負担金で賄っている。
  - ・長期修繕計画・長寿命化計画など中長期にわたる安定的な運営を図る必要がある。
- ねらい
- ・平成25～34年度までの10年間の財政計画を明確にする。

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	
A	<p>【I】 将来予測を踏まえ、平成34年度までの財政フレームを作成した。</p> <p>【J】 あり方ワーキングにて従来区域の負担金算定について検討を行い一定の方向性を確認したが、なお検討が必要な状況である。</p> <p>【K】 兼任職員会で緊急対応時の財源となる基金について協議を行い、平成27年度に財政調整基金を設置した。</p>

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
I 財政計画（財政フレーム）	25	平成25年度完了	A	4 (11) ⑧
J 負担金算定方法の見直し	28	平成26年度完了	B	1 (3) ⑦
K 安定したごみ処理体制の確保	25~29	平成27年度完了	A	

【今後の課題等と取り組みについて】

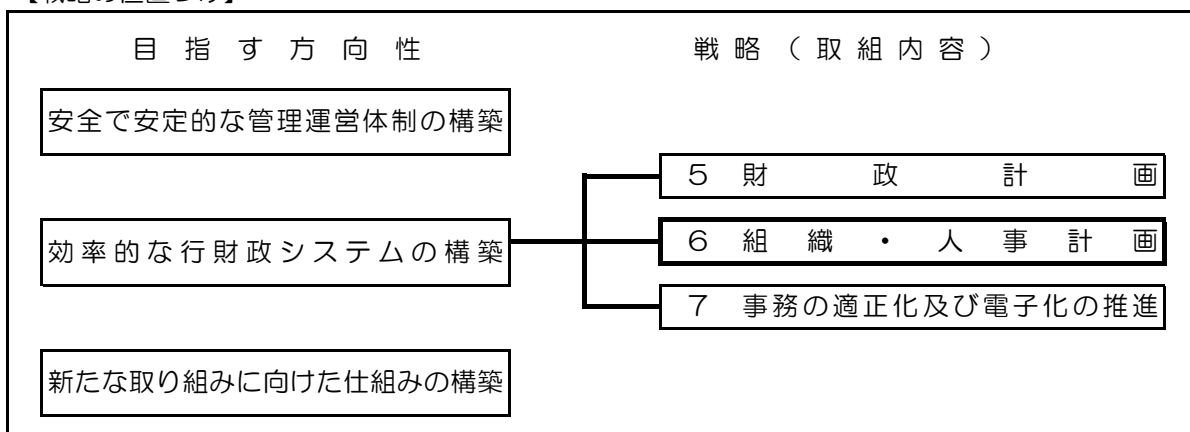
- ・今後も財政フレームを示すことで中期的な財政見通しを明らかにすること、また長期的には次期処理施設建設に向けた資金の検討が必要である。
- ・搬入量に大幅な変更が生じる時期（町田市と八王子市の区域再編時）にあわせ、負担金の算定方法を検討する。
- ・財政調整基金の財源の確保と運用について、構成市と共通認識を図りながら運営していく。



多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	6 組 織 ・ 人 事 計 画
--------------	-----------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

<p>○背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 焼却施設の稼働から15年が経過し、管理期に移行した現在、蓄積された技術力を更に発展・向上させる必要がある。</li> <li>・ 将来建替え時の専門的な技術を向上させる必要がある。</li> </ul> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織力の向上・活性化を図るため、固有職員を中心とした組織体制の構築、人材育成の強化を進める。</li> <li>・ 構成市への派遣を通じた人材交流を進めて行く。</li> </ul>
--

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	<p>【L①】平成25年度に組織・人事計画を作成した。</p> <p>【L②】人材育成において、若年層は研修計画に沿った研修の受講を推進し、中堅層は平成27年度から3か年構成市（町田市）への派遣研修を実施した。</p> <p>【L②】人材育成方針の理念実現に向けた総合的な人材育成を目的とする人事評価制度の実施に向け、調整・試行を行い、平成28年度に本格実施（評価結果を翌年度の勤勉手当に反映）をするとともに、人材育成方針の見直しを行った。</p> <p>【L②】研修全般の制度を見直し、改めて研修計画を策定した。</p>
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
L ①組織・人事計画	25	平成25年度完了	A	2 (5) ⑮
②職員の人材育成	25~29	平成29年度完了	A	2 (7) ⑱

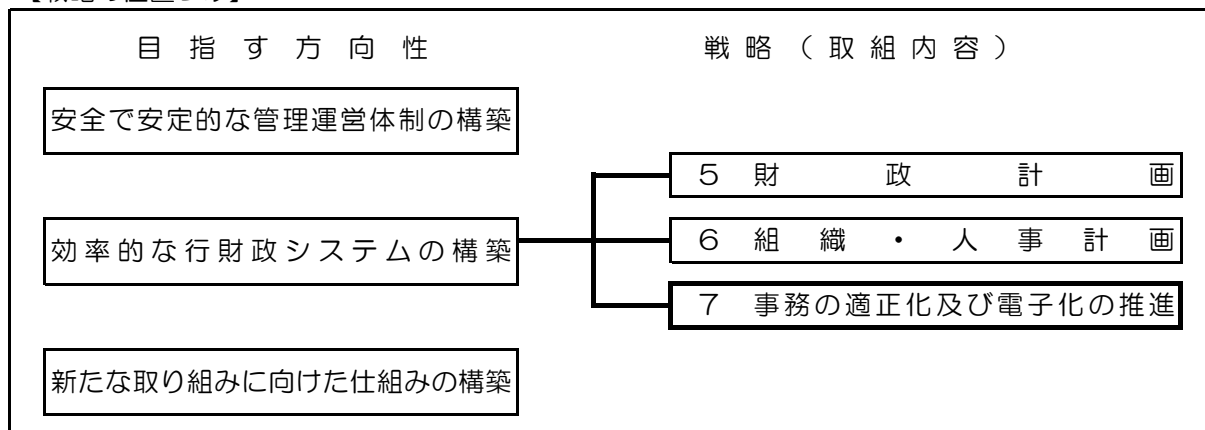
【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期処理施設に向けて、確実に組合運営できる組織体制を構築するための新たな組織・人事計画を策定する。</li> <li>・ 組織力を高めるためには、継続的な人材育成が必要であることから、更なる研修の充実を図る必要がある。</li> </ul>
---

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦 略 （取組内容）	7 事務の適正化及び電子化の推進
---------------	------------------

【戦略の位置づけ】



【戦略の背景・ねらい】

<p>○背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政改革として、事務の適正化や電子化を推進する。</li> </ul> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務システムの電子化を更に推進する。</li> <li>・電子化に伴う情報管理のセキュリティ対策の強化を図る。</li> </ul>
--

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	<p>【M】 構成3市の実施状況、契約システム等を勘案し、公契約制度の導入は難しいと判断した。</p> <p>【N①】 セキュリティ対策としては機器の収納等取扱いのマニュアル化、運用ソフトの精査を段階的に実施、採用した。その後更なるセキュリティ構築のため、平成27年度に「多摩ニュータウン環境組合情報システム等の管理運営に関する規程」「クラウド利用セキュリティガイドライン」「多摩ニュータウン環境組合ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン」平成28年度に「多摩ニュータウン環境組合情報セキュリティ基本方針」を整備した。</p> <p>【N①】 情報セキュリティシステムの運用に関してはルーターのファイヤーウォール機能とアクセスログを記録できる体制を構築することで対応した。</p> <p>【N②】 業務システム電子化の推進に関して財務会計システムと契約管理システムを統合したシステムの更新を行った。また、例規集管理業務委託の更新を長期継続契約で行った。</p>
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
M 公契約制度の導入	27	平成27年度完了	B	2 (5) ⑭
N ①情報管理セキュリティの運用	25	平成26年度完了	A	
②業務システム電子化の推進	26	平成26年度完了	A	2 (5) ⑬

【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの運用・更新にあたっては、今後の技術進歩に合わせて適応できるよう検討・更新が必要である。</li> </ul>
---

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2017  
「戦略（取組内容）」評価シート

戦略 (取組内容)	8 地域連携体制の充実
--------------	-------------

【戦略の位置づけ】

目指す方向性	戦略（取組内容）
安全で安定的な管理運営体制の構築	
効率的な行財政システムの構築	
新たな取り組みに向けた仕組みの構築	8 地域連携体制の充実

【戦略の背景・ねらい】

○背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、広報紙、地域版広報紙などにより情報提供を行っているが、共有化を図るためには双方向の仕組みが重要である。</li> <li>将来的に処理区域の拡大や建て替え事業などが控えている。</li> </ul>
○ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃工場敷地を活用した「地域交流ふれあい事業」を発展的に進める。</li> <li>周辺地域との意見交換の場を構築する必要がある。</li> </ul>

【戦略の評価】

※【 】は次の【重点プログラム】に同じ

評価	<p>【O】地域協議会の立上げについては、旧対策協議会関係の自治会への聴き取り、地元報告会での意見聴取で、「自治会の人的余裕がない」「組合運営を評価し設置の必要はない」といった意見が多かったため、当面は設置を見送ることとした。</p> <p>【P】平成25年度のたまかんフェスタを20周年事業として実施した。</p> <p>【Q】見学者対応については、説明員のマンパワーの充実を図り、内部・外部の協力のもと改善点を検討し、コース上の展示物の更新、避難誘導コースを設置した。また、パンフレットの更新や手選別体験を実施した。</p> <p>【Q】地元報告会でも施設見学会を実施した。</p>
A	

【重点プログラムの状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2022」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
O 地域協議会の立上げ	27	平成27年度完了	B	3 (8) ⑳
P 設立20周年記念事業の実施	25	平成25年度完了	A	3 (8) ⑳
Q 見学者対応の充実	27	平成28年度完了	A	3 (9) ㉑

【今後の課題等と取り組みについて】

<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会が設置されていることが望ましいため、引き続き地元自治会等への働きかけを行う。</li> <li>地域交流事業の更なる充実や周年事業を通じて住民理解の一層の促進を図る。</li> <li>見学者の多様化するニーズに対応できるよう、引き続き検討や改善を行っていく。</li> </ul>
---

中期経営計画・ビジョン2017 実施状況

第一階層重点プログラム	担当課	平成25年度の実施内容	平成26年度の実施内容	平成27年度の実施内容	平成28年度の実施内容	平成29年度の実施内容	○今後の課題等と取り組みについて	評価について	
A 多摩清掃工場あり方検討	施設課 総務課	・効率的で適正な施設稼働(構成市の廃棄物処理基本計画との整合性を図る組合の運営)「処理区域再編計画の検討」(地元住民への合意形成の「アプローチ」)「多摩地域広域ごみ処理実地支援体制への対応」について実施した	・検討課題について、施設課5回、総務課3回、全体会2回実施。H26/8/11第4回、10/10第5回兼任職にて報告。区域再編の検討は、兼任職員会議で行うこととなった	・多摩清掃工場の建物、建築設備の劣化診断を実施した ・プラントメーカーから不燃粗大棟修繕計画の提案を受けたが内部での精査に至っていない	・平成27年度にプラントメーカーからの提案を精査して、長期的な維持管理計画を立てた	・プラントメーカーから提案を受け内容を精査する	○今後の課題等と取り組みについて ・処理区域の再編は、当初の検討条件を改めて見直すことになったため、その条件が整い次第、個別具体的に問題解決を行う必要がある	平成26年度完了	
B 長期修繕計画	施設課	・設備の状況を把握し長期修繕計画の見直しを行った	・機設備については、平成34年度までの計画を作成した ・平成26年度については、予防保全的な整備を最小限にし、設備の状況に合わせた整備をおこなった	・多摩清掃工場の建物、建築設備の劣化診断を実施した ・プラントメーカーから不燃粗大棟修繕計画の提案を受けたが内部での精査に至っていない	・平成27年度にプラントメーカーからの提案を精査して、長期的な維持管理計画を立てた	・プラントメーカーから提案を受け内容を精査する	○今後の課題等と取り組みについて ・長期修繕にない項目(設備)が経年劣化で機能なくなってきた。緊急的な対応が増えてくるので迅速に行動する必要がある	・不燃・粗大ごみ処理施設について、長期修繕計画を長寿命化計画に合わせ平成44年度までの作成を行い、この5年間の計画を精査・実行ができた。	
C 長寿命化計画	施設課	・平成25年度から平成27年度に長寿命化計画を実施予定だったが、1年順延になった ・平成26年度から平成28年度に変更予定(低温触媒、分析計、ケールリール、LED照明等)	・平成26年度の予定では、ごみクリーンケールリール2基、灰クリーンケールリール1基、水根分析計2台、ばいじん計2台だったが、平成28年度予定のLED照明への交換を今回、前倒しで実施した	・平成27年度予定の項目実施。2号脱硝反応塔低温触媒への更新、3号減温塔コンベア間欠運転への変更、ストロカ駆動装置更新、冷却水湯水ポンプ(2台)更新を行った	・平成28年度予定の項目実施。3号脱硝反応塔低温触媒への更新、3号減温塔コンベア間欠運転への変更、換気ファンインバータ化を行った		○今後の課題等と取り組みについて ・30年計画工事を完了後もCO2削減と延命化に取り組む	平成28年度完了	
D 総合評価方式導入効果検証(工場運転等管理業務委託)	施設課 総務課	・工場運転等管理業務委託契約後、受託者と要求水準書を踏まえた提案書について協議を実施した ・前契約と新契約後の業務委託量の比較(効果)について、検証項目の洗い出しを行い最終項目を決定した ・平成24年10月～平成25年9月までの一年間の進捗状況の確認を実施した	・平成25年10月～平成26年9月までの一年間の日神サービス(現Hitz環境サービス株式会社)の提案項目進捗状況確認を実施した。提案項目による減額項目は、3項目から2項目に減少した。現在は7項目増加し実施されレベルアップが図られた	・平成26年10月～平成27年9月までの一年間の工場運転等管理業務委託会社の提案項目進捗状況確認を実施した。この期間中、実行及び計画中であった項目は、3項目から2項目に減少した。現在は7項目増加し実施されレベルアップが図られた	・平成27年10月～平成28年9月までの一年間の工場運転等管理業務委託会社の提案項目進捗状況確認を実施した。この期間中、実行及び計画中であった項目は、3項目から2項目に減少した。現在は7項目増加し実施されレベルアップが図られた		○今後の課題等と取り組みについて ・平成28年10月～平成29年9月までの一年間の進捗状況の確認を実施する	平成28年度完了	
E 循環型社会形成推進地域計画	施設課	・地域計画内の「基幹設備改良事業」を計画期間内で1年順延した	・基幹改良工事の契約 ・計画の趣旨を効果的に発揮するため、見直し可能な工事を前倒しした	・計画の趣旨を効果的に発揮するため、見直し可能な工事を前倒しした	・平成28年度は、基幹設備改良工事の終了年度である。本工事の効果として、電力削減量は1,662kWh/日、発電増加量は1,573kWh/日となり、CO2は、工事前の平成24年度比で13.4%の削減となった。交付金要件の3%を大きく上回る結果となった。また、羽毛布団やCD/DVDの新たな資源化に取り組んだ	・平成29年度は目標達成年度であるため、従来の資源化を継続するとともに、新たに自転車破砕物(非鉄)の売却等を実施し総資源化量に注力する取組を行った。また、多摩市での資源化率を向上させるため、市況とのマッチングが難しくなったため、費用対効果を検討し中止となった ・③羽毛布団やCD/DVDの売却を開始した	○今後の課題等と取り組みについて ・平成30年度の7月末までに、都知事所見を添えて目標達成状況報告書を環境省に提出する	・地域計画に対する総合的支援制度である交付金制度を活用するため、計画を適切に実施した。家庭系排出量は計画目標に対して○である(あった。)が、事業系排出量の削減目標を達成できなかった。排出量全体としては、計画目標を○(達成)することができた。工場の資源化量が○、構成市の集団回収量が○、計画目標より○(少なく、未達)となっている。	
F 資源化率の向上(不燃・粗大)	施設課	・多摩市から搬入される「金属・小型家電」の分別、資源化を実施した	・多摩市「金属・小型家電」の資源化方法の簡略化	・多摩市「金属・小型家電」の売却価格を上げる工事準備(応援依頼含む。)完了 ・銅管とステンレスを資源化	①多摩市「金属・小型家電」の売却価格を上げる工事を実施し、それに伴い構成市へ不燃ごみごみ搬入を実施した。この結果、厳しい相場状況でも有償処分を継続できた ②粗大ごみを売却しリユースしたが、市況とのマッチングが難しくなったため、費用対効果を検討し中止となった ③羽毛布団やCD/DVDの売却を開始した		○今後の課題等と取り組みについて ・不燃・粗大ごみから、より多くの品目を効果的に資源化できるように、継続的に取り組む ・【検討事項】八王子市・町田市の不燃ごみ中の「小型家電」を資源化 ・【検討事項】粗大系の「小型家電等」を資源化	平成28年度完了	
G 埋立残渣の削減	施設課	・不燃残渣の削減を①多摩清掃工場で焼却②たまご資源循環組合でのエコメント化③民間施設での資源化の3つを検討し、①②の方向性となった	・埋め立て残渣の焼却による資源化兼任職員会議・正副管理者会議・代表者会議で了承。組合員に説明、地元説明会で了承。組合員にて管理者が報告。東京たまご資源循環組合が了承	・東京都多摩環境事務所へ軽微変更を提出し、埋立残渣の焼却処理の着実な取り組みと影響を確認				○今後の課題等と取り組みについて ・平成30年度の7月末までに、都知事所見を添えて目標達成状況報告書を環境省に提出する	平成26年度完了
H 太陽光発電システム・LED照明化等の導入を検討	施設課	・太陽光発電設備導入について設置費用回収年数と設置場所を調査し、検討(4回)した。回収年数は全量売電方式が短く28年で設置費用の回収は難しい。設置場所は、管理棟上では固定荷重を越えてしまう。焼却棟では構造上屋根に重量物を置くことは難しい、不燃・粗大ごみ処理棟では屋根形状が設置に適さない、等適した場所が無い。よって、太陽光発電システム導入は実施しないこととする	・基幹設備改良工事において、LED照明の一部変更を実施した	・東京たまご資源循環組合が了承			○今後の課題等と取り組みについて ・基幹設備改良工事以外でのLED照明化の検討を行う	平成26年度完了	
太陽光発電システム・LED照明化等の導入を検討	施設課	・LED照明導入については長期修繕計画で平成29年度に実施予定としていたが、長寿命化計画にて平成28年度に実施予定となった	・基幹設備改良工事において、LED照明の一部変更を実施した				○今後の課題等と取り組みについて ・基幹設備改良工事以外でのLED照明化の検討を行う	平成26年度完了	
機運更新等省エネ化	施設課	・オーバホール、修繕等で省エネルギーの電動機やポンプを選定、更新し省エネルギーの工場運営を進めた	・オーバホール、修繕等で省エネルギーの電動機やポンプを選定、更新し省エネルギーの工場運営を進めた	・長期修繕計画に含まれない突発的な機器の不具合対応の修繕においても、性能の落ちないより省エネな物を選定するように工事・修繕を執行した	・長期修繕計画に含まれない突発的な機器の不具合対応の修繕においても、性能の落ちないより省エネな物を選定するように工事・修繕を執行した		○今後の課題等と取り組みについて ・日々技術は進歩しているため、このプラントに合った技術の情報を集めていかなければいけない。	・常に新しい物の情報を調べ工事修繕に活かした。この5年間の目標は、達成できた。	
I 財政計画(財政フレーム)	総務課	・ビジョン2017を作成するにあたり財政フレームを作成した					○今後の課題等と取り組みについて ・今後大きな財政支出を伴う場合は見直しを行う	平成25年度完了	
J 負担金算定方法の見直し	総務課	・あり方ワーキングにて従来区域の負担金算定の検証を行った	・あり方ワーキングにて従来区域の負担金算定の見直しを行った ・平成26年8月11日の兼任職員会議にて負担金算定方法の見直しについて報告を行った	・財政調整基金の財源と運用について兼任職員会議で調整を行った ・財政調整基金条例を設置した			○今後の課題等と取り組みについて ・現状では負担金算定方法の変更は難しい ・搬入量に大幅な変更が生じる時期(町田市と八王子市の拡大区域について整理が付き搬入が開始される時期)に負担金の算定方法を変更する	平成26年度完了	
K 安定したごみ処理体制の確保	総務課	・多摩清掃工場あり方ワーキングで、施設整備基金及び財政調整基金について検討した ・施設整備基金は、目標額6億円を継続して行き、今後1～2年で目標額に達した場合は削減の検討を実施した ・財政調整基金等の設置を行うための説明を実施した	・あり方ワーキングで、施設整備基金及び財政調整基金について検討を行った ・施設整備基金の目標額と財源については現状のままとする ・財政調整基金の設置について正副管理者合意がなされた ・財政調整基金の財源について兼任職員会議で検討している	・財政調整基金の財源と運用について兼任職員会議で調整を行った ・財政調整基金条例を設置した			○今後の課題等と取り組みについて ・財源の確保と運用について、構成市と共通認識を図りながら運営していく	平成27年度完了	
L 組織・人事計画	総務課	・組織・人事計画は作成完了					○今後の課題等と取り組みについて ・次期処理施設に向けて、確実な組合運営を実施できる組織体制を構築するため、新たな組織・人事計画を策定する ・清掃工場としての組織力を高めるためには、継続的な人材育成が必要であることから、更なる研修の充実を図る必要がある	平成25年度完了	
職員の人材育成	施設課	・人材育成:若年層は研修計画に沿って研修を実施、外部研修の受講履歴を作成、中堅層については派遣研修の構成市との調整・協議を実施した	・若年層については研修計画に沿って研修を受講させるとともに、それを含めた外部研修について受講履歴を作成し、研修計画の確認に活用 ・中堅層については構成市(町田市)と調整・協議を行った結果、平成27年度から3年間の派遣研修(1名)を実施することとなった	・若年層については研修計画に沿って研修を受講させるとともに、それを含めた外部研修について受講履歴を作成し、研修計画の確認に活用 ・構成市(町田市)と調整・協議を行い、平成27年4月から3年間の派遣研修(1名)を開始 ・人材育成方針の見直しを行い、人事評価制度本実施に向けた調整・協議を行った	・若年層については研修計画に沿って研修を受講させるとともに、それを含めた外部研修について受講履歴を作成し、研修計画の確認に活用 ・町田市への派遣研修(平成27年度～平成29年度)を実施 ・平成27年度の人事評価制度試行実施を踏まえ、本格実施を開始 ・派遣研修計画の策定に向け検討を行った	・町田市への派遣研修(平成27年度～平成30年度)を実施 ・人事評価結果を6月及び12月の勤労手当に反映した ・多摩ニュータウン環境組合研修計画を策定した	○今後の課題等と取り組みについて ・次期処理施設に向けて、確実な組合運営を実施できる組織体制を構築するため、新たな組織・人事計画を策定する ・清掃工場としての組織力を高めるためには、継続的な人材育成が必要であることから、更なる研修の充実を図る必要がある	・平成29年度で町田市への派遣研修が終了することから、平成30年度以降の次期派遣研修に係る検討を行っていたが、職員、管理職及び人事担当による検討の結果、派遣研修に限らず研修全般の制度を見直し、研修計画を策定した。	
M 公契約制度の導入	総務課	・既に公契約条例を実施している構成市の多摩市から、条例制定までの経過や実施後の検証の結果について資料の閲覧および聞き取り等の情報収集を実施した	・公契約制度導入市町村に公契約アンケートを行い、制度導入におけるメリット及びデメリットなどを調査した ・組合で公契約該当者として想定される、日神サービス(現Hitz環境サービス)、日立造船などにアンケートを実施したが、対象人数の把握などにより難色を示し、回答がなかった	・現在対象となる、契約案件請負者に、実施に向けての打診を行ったところ、公契約対象者従業員となる人数等が多いことから現状では協力することは難しいとの回答があり、内部で検討した結果、対象請負者が協力できる段階まで公契約の実施は難しいので実施しない方向性を決定した			○今後の課題等と取り組みについて ・他の自治体における導入が進み事業者に対応できる仕組みが構築された段階で再度検討する	平成27年度完了	
N 情報管理セキュリティの運用	施設課	・情報セキュリティシステムの導入については想定していた以上に費用がかかるため26年度においてシステム導入の再検討を行う ・ルーター交換によるセキュリティの向上を図った ・職員貸与PCの入れ替えによるWindows7への移行を行った ・アクセスログの収集を可能とした	・セキュリティ対策として終業時にPCを鍵付の引出しにしようとした ・デスクトップPCはセキュリティワイヤーをつけた ・OSをすべてWindows7以上とした	・情報セキュリティシステムの運用に関してはルーターのファイアウォール機能とアクセスログを記録できる体制を構築することで代用する			○今後の課題等と取り組みについて ・情報セキュリティに関しては今後の技術進歩を見ながら絶え間ない更新が必要	平成26年度完了	
業務システム電子化の推進	施設課		・業務システム電子化の推進に関して財務会計システムと契約管理システムを統合したシステムの更新を行った ・例規集管理業務委託の更新を長期継続契約で行った				○今後の課題等と取り組みについて ・システムの電子化に関しては今後の技術進歩を見ながら絶え間ない検討が必要	平成26年度完了	
O 地域協議会の立上げ	施設課	・平成25年度地元報告会にて、多摩清掃工場今後の取組みについて報告を実施する ・一部地元住民の方への協議会設置に係る相談を実施した(旧対策協議会に代わる主要自治会を中心に、協議会立上げの目的、環境組合が主要自治会に多く足を運ぶ等、気運醸成の活動のすべきとご意見を頂く)	・地元報告会を実施した ・地元報告会の中で地域協議会設置に係る意見を求めたところ、現状のままでは十分。地域協議会について各自自治会に人員的な余裕がない、環境組合がしかりやっていた方がいいので、地域協議会の必要はないと考えている。ただ、継続的に地域住民への情報のフィードバックの方法についてはこれまで以上に期待しているとの意見があった。	・地域協議会の立上げについて、地元報告会に代わって意見を踏まえ、当面は地域協議会の設置を見送ることとなった			○今後の課題等と取り組みについて ・規約の変更に係る処理区域拡大に対応するための、地元住民及び関係市民への説明の実施 ・地域に開かれた清掃工場の理念を鑑み、地域との協議、情報交換の場としての組織づくりについては継続的に検討する ・当工場の建替え時には改めて地域協議会が設置されていることが望ましいことから、地域住民との情報交換や学習の場の設立に向けて地元自治会等への働きかけや多摩市廃棄物減量等推進員との連携を検討する	平成27年度完了	
P 設立20周年記念事業の実施	施設課	・たまたまフェスタ(地域交流事業)で、組合設立20周年記念事業を取り入れ実施した						平成25年度完了	
Q 見学者対応の充実	施設課	・見学者説明員の充実(マンパワー増員1名実施した) ・新規説明員による見学者対応を12回実施した	・組合だけでなく、リサイクルセンター、日神サービス(現Hitz環境サービス)とともに改善点について検討した ・見学者コースに展示物の模型、クリーンの絵の設置、避難誘導コースを設置するとともに、各学校へのアンケートを行い改善点の検討材料とした	・組合だけでなく、リサイクルセンター、工場運転等管理業務委託会社とともに改善点について検討した ・見学者コースに展示物の模型、クリーンの絵の設置、避難誘導コースを設置するとともに、各学校へのアンケートを行い改善点の検討材料とした ・パンフレットの更新を行った	・模擬不燃ごみ手選別機を作製し、組合主催の見学者会において、参加者に様々な不燃ごみの中からペットボトル・空き缶・スプレー缶・乾電池・ボタン電池・資源ごみ等を模擬選別体験してもらったことにより、ゲーム感覚で分別作業の困難さなど別の大切さを実感してもらった ・見学者時に手選別作業の様子をビデオで放映した。また、地元報告会において施設見学会を新たに実施した	○今後の課題等と取り組みについて ・様々な見学者コースを作ることで、見学者の多様化するニーズに対応し、より開かれた清掃工場実現のため実施することが課題である	平成28年度完了		